

大山・横手口沢 山行記録

日 時 2019(平成 31)年 3 月 9 日(火)

参加者 内田(単独)

コースとタイム

榊水原 P 9:40 — 989m 地点 11:15 — 横手口沢源頭部 DP(1 6 3 7 m)14:30—
横手口沢入口 16:00

3/9 大山の横手口沢の山スキー報告です。

朝寝坊してしまい榊水原 P を 9:40 スタート。
雪のない環状道路もスノーシェードを過ぎたあたりから雪があり、早々シートラを止めシール登高。

横手道と環状道路の合流点付近にある横手口沢入口に到着。ここで横手口沢を滑降してきたというテレマーカーに出会う。

「カリカリで大変怖かった！」と聞かされる。遅立ちも三文の徳??

シュプール跡をそのまま辿るも道路を東に向かうので、引返して適当なところから横手口沢右横の林間を登る。



雪は続くが木々がうるさいのと、湿雪でシール登高しづらい。

約 1000m 地点から沢へ下りる。

ここで、クトーを装着したりヘルメットを被ったりして気を引き締める。

さあ一行くぞ！クトー効果で斜面を殆どズルこと無くスムーズに登高。

途中、斜面を見上げると、上から何か黒い物が転がりながら落ちてくる。「何やろ？」と
思っていると、足元をスルー。よく見ると 10 cm位の落石。直撃を免れたが危ないところで

あった。

これから進む雪面には殆ど落石は無いようだが、上部を注視しながらのシール登高。

1400m 辺りまで登ると風が出てくる。見上げると岩峰がありアルペンの光景ときれいな雪面が続く光景にしばし見惚れる。

1540m 辺りに来ると斜面の幅は約 30m と狭まるが、上部はまた広がり、沢の源頭部へきれいで緩やかな登りが続く。



1637m の頂上台地からのドロップポイントまでシール登高。ここで滑降準備。

さあいくぞ！！割と広く緩やかな傾斜の安全な源頭部斜面なので気軽に滑れるはずなのに、単独行の不安からいやに心臓が高鳴る。

のどの辺りで停止。これから眼下に広がる斜面への期待と上部の急傾斜に緊張感が高まる。

スタート！谷足のエッジを効かせショートターンを繰り返しながら、ドンドン高度を落としていく。「イヤッー、ホー！！！」

ブッシュが出始めた所で停止。誰もいない素晴らしい斜面を独り占め。

遙か上部から刻まれたシュプールを見上げ、「si-hairu 横手口沢」と叫ぶ。

これより、木々の間が狭い斜面に手こずりながら沢の入口へ向かって、汗をかきかき小刻みターンの繰り返し。入口手前からは、板を担いで下っていくと道路に出る。

体力の限界に、三ノ沢の下見をパスして榊水原Pへ下山。